

1. 課題解決学習を充実させる学習モデル

(1) 課題解決学習を充実させる学習モデルとは

課題解決学習を充実させるとは、学習課題の解決を通して生徒が思考を深め、公正に判断し、適切に表現できることであると考えます。そして、課題解決学習を充実させる取組の三つの柱が、次の「単元・単位時間の構造化」「学習課題の三つのステップ」「キーワードを活用した論述」です。

◇単元・単位時間の構造化◇ (☞「2. 単元・単位時間の構造化」)

各単元・単位時間の学習過程を構造化して課題解決のプロセスを図で示し、その中に言語活動を位置付けます。このとき作成する単元構造図や単位時間構造図に沿って、学習指導案を作成します。

◇学習課題の三つのステップ◇ (☞「3. 学習課題の三つのステップ」)

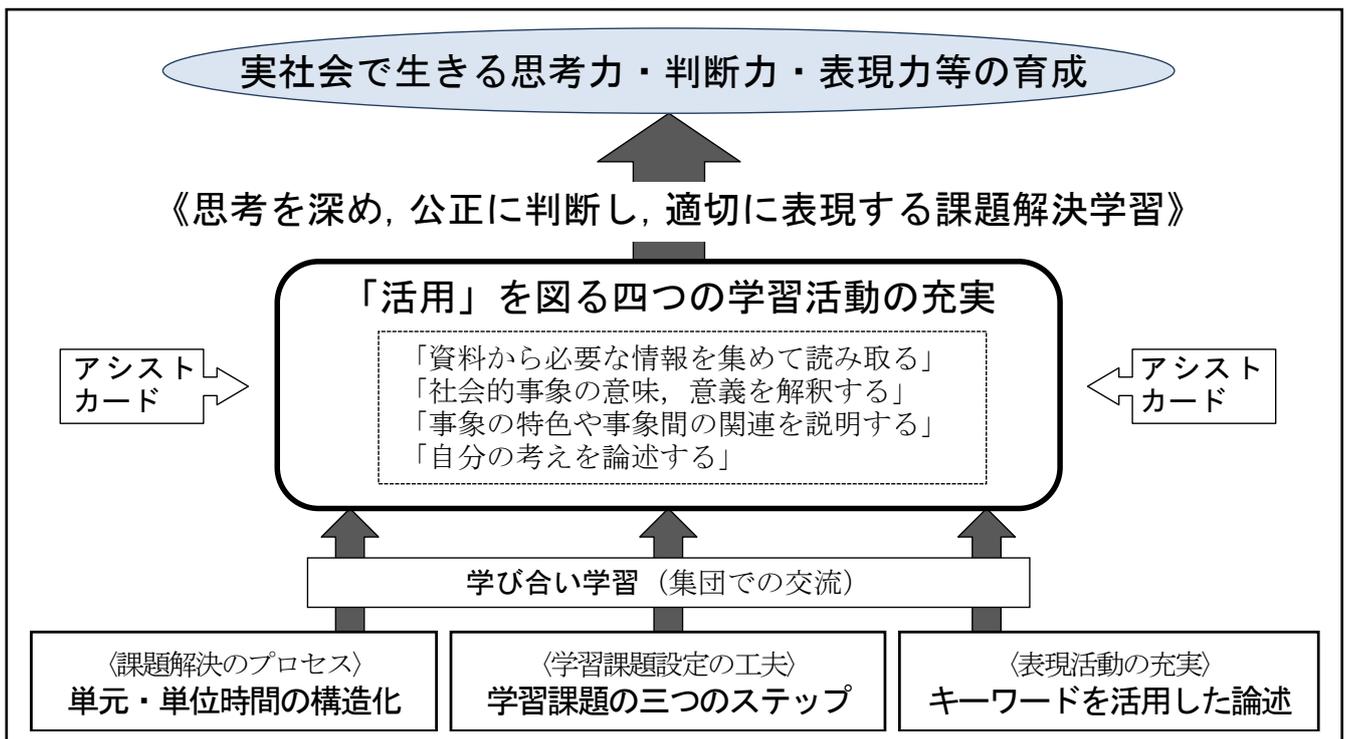
学習活動の展開に応じた三段階のステップで、学習課題を設定します。

◇キーワードを活用した論述◇ (☞「4. キーワードを活用した論述」)

調べたことや考えたことを、習得すべき知識をキーワードとして用いて書き表します。

更に、調べたことや考えたことをグループや学級全体で交流する「学び合い学習」(☞「5. 学び合い学習」)を行うことで、学習内容を広げたり深めたりします。また、学習活動を支援するための「アシストカード」(☞「6. アシストカード」)を用いることで、学習の自立をうながします。下の図は、これらの取組を学習モデルとして示したものです。この学習モデルを通して、図中に示した「活用」を図る四つの学習活動を充実させることが、思考を深め、公正に判断し、適切に表現する課題解決学習の実現につながると考えます。個々の取組については、後に詳しく述べたいと思います。

<課題解決学習を充実させる学習モデル>



(2) 「活用」を図る四つの学習活動

中学校学習指導要領総則には、「生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視する」とあります。ここからは、基礎的・基本的な知識及び技能の「活用」を図る学習活動を充実させることで、生徒の思考力・判断力・表現力等が働き高まるのだと考えることができます。では、この『「活用」を図る学習活動』とは、どのようなものでしょうか。

中央教育審議会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）」の中で、次のように述べています。

社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から（中略）地図や統計など各種資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る。（下線は筆者による）

この中の下線で示した四つの活動が、『「活用」を図る学習活動』です。次に、これらの「活用」を図る学習活動について、「具体的な学習活動」「学習活動で主に活用する知識や技能」「学習活動を通して主に働き高まる能力」「学習活動を通して新たに習得する知識」という四点から整理してみます。

	具体的な学習活動	主に活用する知識・技能	主に働き高まる能力	新たに習得する知識
【学習活動①】 資料から必要な情報を集めて読み取る	社会的事象の構造や過程などを事実として認識する。	・資料活用の技能	・資料活用の技能	・調べて身に付ける知識 ・用語などの知識
【学習活動②】 社会的事象の意味、意義を解釈する	社会的事象の背景にある目的や理由などについてとらえる。	・学習活動①で習得した知識	・思考力 ・表現力	・調べて身に付ける知識 ・考えて身に付ける知識
【学習活動③】 事象の特色や事象間の関連を説明する	社会的事象を特徴付ける背景や事象間の因果関係などについてとらえ、表現する。			
【学習活動④】 自分の考えを論述する	社会的事象から見出した課題について価値判断や意思決定し、表現する。	・学習活動①から③で習得した知識	・判断力 ・表現力	(なし) ※社会的態度の形成

* 表中に示した思考力・判断力・表現力については、次のようにとらえています。

思考力…社会的事象から見出した課題を解決するために、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多様な視点から考える力

判断力…課題解決のために、多様な考えを、そのときの社会の状況に応じた公正な基準で判断し、自分なりの考えとしてまとめていく力

表現力…課題解決の過程や結果を、言語などで他者に正確に伝えるように表現する力

また、習得する知識は、国立教育政策研究所の分類に基づき、「考えて身に付ける知識（社会的事象の意味）」「調べて身に付ける知識（社会的事象）」「用語など」の三つとします。

上の表から、学習活動②と③は、ともに社会的事象の背景を探ることで思考力を高める活動であることがわかります。そこで、これ以降は、この二つの活動を同じカテゴリーのものとして扱うことにします。また、学習活動④は、よりよい社会を形成するために主体的に参画しようとする社会的態度を育むための活動であるととらえます。

ここにまとめたように、学習活動②と③は、主に学習活動①で習得した知識を、学習活動④は学習活動①から③で習得した知識を活用して展開します。学習活動①から学習活動②と③、そして学習活動④へと段階的に四つの活動を進めていくことで、課題解決学習の充実を目指します。